

えひめの歴史文化モノ語り

県歴博収蔵資料から ⑩

絵が描かれた弥生土器を 今紹介する今治市別名見たことがある方はおられ 寺谷(へつみ)よつてらたに(る)だろうか? 当館でも何 I遺跡出土絵画土器は、高 度か、特別展やテーマ展で 坏(たかつき)という土器 展示したことがあるが、「ど の坏部から脚部にかけて、 うして弥生土器にこのよう 壁付きの建物2棟がへらで なものを描いたのだろうか 描かれている。建物の間に

今治市別名寺谷I遺跡の絵画土器

「壁付き建物」描いた謎

「?」という疑問がいつも頭から離れない。研究者が集めたデータによると1999年の段階で、中国・四国地方では、9県154遺跡、506例が確認されている。本県では、35遺跡129例が数えられているが、その後の資料の増加により、140例近くになると思われる。

は、矢羽根透かしという伊予の高坏の特徴である三角形の透かし孔が認められる。現状では、2棟しか確認できないが、4カ所の矢羽根透かしの間に建物が1棟ずつ描かれていたことが想定されている。この建物には屋根の他に格子状の壁が表現されていることが特徴である。

絵画土器のモチーフとしては、建物の他に鹿、人物、鳥、船、魚等が確認できる。建物は2番目に多いことが指摘されているが、このようない壁を表現した事例は国内でも本資料のみである。現在のところ、建物の絵画土器は「単なる風景ではなく、日常生活において重要視するものとして表

現された」と考えられている。この絵画土器が発見された別名寺谷I遺跡では、堅穴建物1棟と溝6条が確認されている。絵画に描かれたような壁付きの建物は確認されていないが、近隣にあった建物を見て、弥生人はこの土器に描いたのであろう。

それではなぜ、このような壁付きの建物を描いたのであろうか? このよう (専門学芸員・富田尚夫) <随時掲載します>



絵画土器(弥生時代中期) 県教育委員会蔵